

さいがい そな 災害に備える

地震や火事が発生したときに、自分や友達、家族の命を守るためには、学校の避難訓練や地域の防災訓練に真けんに参加することが大切です。地域の防災訓練に参加することで、地域の一員として自分にできることを考え、行動する力も身に付きます。

1 学校の避難訓練

学校では地震や火災を想定した避難訓練に加えて、津波を想定した訓練や登下校時の大きな地震を想定した訓練なども行われるようになりました。災害の種類や発生の時間帯、場所などのちがいによってどのように行動するかを身に付けましょう。

仙台市立七郷小学校の取組 —津波対応避難訓練—

若林区にある七郷小学校は、津波浸水域に近い場所に校舎があります。そのため、津波に備えた避難訓練を行っています。

地震発生時には、まず、校庭へ一次避難し、安全を確認します。その後、「大津波警報発表」を合図に、想定される津波の高さより高く安全な校舎の3階と4階に二次避難し、警報解除まで安全を確保します。

七郷小学校では、「海に近い」という地域の特ちょうを理解して、避難訓練に取り組んでいます。もしものとき、安全に、すばやく避難できるように、訓練を通して自助の力を高めています。



一次避難の様子



二次避難の様子

2 地域と合同の防災訓練

太白区にある東四郎丸小学校では、児童が保護者や地域の方と一緒に「総合防災訓練」を行っています。

(1) 親子防災学習

5年生は、「そなえゲーム」を用いて学習しています。非常時を想定して、自分たちの地域に必要なもの・ことについて親子で話し合います。

親子で考えることで、地域のつながりや自分たちで備えることの大切さに気付くことができます。



5年生 親子防災学習の様子

※「SSG仙台発そなえゲーム」は、仙台市と市民が協働で開発した防災ゲームです。

(2) 地域の方との訓練

6年生は、地域の方と一緒にたき出し訓練や救急救命訓練に取り組んでいます。地域の方とともに、様々な訓練を行うことで、自分の力を他の人のために役立てようとする、共助の心を育んでいます。

また、地域の方との訓練を通して、地域行事へ参加することや地域の方と関わり合うことの大切さについて、理解を深めています。



6年生 たき出し訓練の様子

? 考えよう

○東日本大震災を教訓に、予告をせずに避難訓練をしている学校もあります。自分たちの学校のある地域の特ちょうを理解し、災害に備えるためにどんな避難訓練・防災訓練を行ったらよいかを考えてみましょう。